

かお・人・interview

2021年12月1日

所長

インタビュー



国土交通省 九州地方整備局
有明海沿岸国道事務所 所長

新保二郎氏

jiro NIBO

有明海沿岸国道事務所は、有明海沿岸道路推進のために平成31年4月に新設された。福岡・佐賀・熊本の3県を跨ぎ管理の一元化、事業の集中投資と安全な施工で段階的な早期開通が実現している。令和3年3月には福岡県区間が全線開通。有明海沿岸道路利用者数と沿線開発の増加は、周辺地域の経済に大きく寄与している。現在取り組んでいる事業や課題などについて新保所長に話を伺う。

Q 所長就任にあたっての抱負

当事務所は、有明海沿岸道路に特化したプロジェクト事務所です。3県に跨がる特性を踏まえ、これまで培ってきた地元等との信頼を大事にしつつ、関係機関と連携してスピード感のある道路ネットワーク整備、着実な道路管理に取り組みます。また、有明海沿岸の地域特性である有明海苔等の産業や、文化遺産へも充分に配慮しながら事業を推進して参ります。



▲有明海沿岸道路にペイント

当事務所は福岡、佐賀、熊本3県の方々と接する機会があり、地域の生活や経済を支える建設業界の将来に向けて、建設業が魅力ある職場になるために、できるだけ多くの声を聞き、また、将来の担い手となる若手技術者の入職・育成にも役立てればと思います。

平成13年の着工から、平成19年度(2007)に大牟田IC～高田IC(9.8km)、柳川市の柳川西IC～大川市の大川東IC(2.4km)の区間が開通して以降、異例のスピードで開通しています。多くの方々が利用され、この道路利用のみならず、沿線地域の経済状況も活発化しています。これまでの関係者の方々への敬意と感謝を忘れず、今後もスピード感のある事業のマネジメントに取り組みます。





今、必要なことは何か、業務の中で先々のことを想定しながら、手戻りなく最短で効率的に業務を進められるか考えるようにしています。

▲(仮称) 早津江川橋

Q九州とのかかわり

これまでに九州地方整備局勤務の中でも、各県の事業に携わってきました。印象に残る事業は多々ありますが、ここ有明沿岸道路に関しては有明沿岸道路出張所時代から徳益IC～柳川西IC間の4.5km開通に携わっています。さまざまな課題を経て、地域の皆さまと共に開通を迎えられたことは、道路建設に携わる身として非常に貴重な経験でした。また、昨年度に開通した区間の、連続アーチ橋としては日本一の規模となる有明後川大橋の建設も忘れることができません。下部工施工から上部工施工まで携わることができ、技術者としてかけがえのない体験でした。

大きな自然災害の対応に奔走したことも、記憶に残っています。整備局の道路計画第一課に在任中には、熊本地震(平成28年)が起り、道路工事課長時代には、令和2年7月豪雨災害がありました。想像を超える力で襲ってきた自然災害に対し、被害を最小限度に抑えられるよう早期復旧や二次的被害の防止に取り組みました。

プロジェクトの関わりとして、思い出深いのが鹿児島国道事務所の係長時代に鹿児島東西道路の計画において、設計検討、県や市との調整、都市計画決定に向けての地元説明などに携わり、前任地の道路工事課長時にシールドトンネル工事の発注に携われたことは、感慨深いものがありました。

延岡河川国道事務所時には、新直轄方式での東九州道のトンネルや橋梁工事が最盛期であり、さまざまな経験をさせていただきました。また、九州中央道の高千穂日之影道路の事業化に向けた調査設計、地元説明に携わりました。先日全線開通の話聞いて、さまざまな調整に奔走したことを思い出し、無事に開通できた喜びと、関係者の方々へ感謝を申し上げたいと思います。

Q当事務所の紹介(事業内容、組織、特徴)

有明海沿岸道路は有明海に沿って福岡・佐賀・熊本で整備される地域高規格道路です。そのうち、当事務所では、国の直轄整備区間として三池港IC連絡路から佐賀JCTまでを所管しており、令和3年3月14日に大川東IC～大野島IC間の延長3.7kmが開通し、福岡県内の自動車専用道路が27.5km全線開通しました。



▲大川東IC～大野島IC間の延長3.7kmが開通

平成31年度から県境を越えた更なる事業推進体制を強化するとともに、供用中区間の管理も所掌し、有明海沿岸道路の一体的かつ効率的な整備・管理を行うため、新たに有明海沿岸国道事務所が設置されました。

当事務所の組織は、令和2年4月に経理課が新設され、所長以下、副所長2人、建設監督官、総務、経理、工務、管理の4課の構成となっています。



▲(仮称)諸富IC部

Q 今年度の事業概要

現在、福岡県大川市大野島ICから佐賀県佐賀市嘉瀬町の佐賀JCTまでを事業推進しており、大野島IC～(仮称)諸富IC間(1.7km)を令和4年度の開通を目標に工事を全面展開中です。

大野島IC～(仮称)諸富IC間においては、(仮称)早津江川橋(約850m)の渡河部(約450m)の上部工工事は完了し、引き続き橋面舗装を行う予定です。また、同橋の陸上部(約400m)においては、下部工はすべて完成し、上部工及び鋼橋部の床版工工事を進めています。

(仮称)諸富高架橋(約340m)についても、下部工

はすべて完成し、鋼橋部の床版工工事を進行中です。

(仮称)諸富IC部は、地盤改良工事はほぼ終わり、盛土工事を行っており、開通目標に向けて確実に工事を進めていきます。(仮称)諸富IC間から西側の区間については、工事を行うための地質調査、道路設計や用地買収などを行っており、(仮称)諸富IC～(仮称)川副IC間においては、地盤改良工事や橋梁の下部工工事を進めていく予定です。

また、有明海沿岸道路(大牟田～大川)起点部の三池港ICから荒尾市の臨港部を結ぶ三池港IC連絡路(2.7km)においては、今年度、新たに橋梁の下部工事に着手します。

今まで培った地元の方々との信頼を大事にしつつ
関係機関と連携してスピード感のある道路ネットワーク整備、
着実な道路管理に取り組みます。



▲有明後川大橋

Q 地域との連携・協働について

当事務所では、「道守活動」への積極的な参加を通して地域の方々との連携・協働を図っています。

有明海沿岸道路沿線の「道守柳川ネットワーク」や「道守大川ネットワーク」において、年数回開催される地域の清掃活動に、事務所職員、受注業者の方々、地域や企業の皆さまと協働して取り組んでいるところです。



▲道路巡回



▲道守柳川ネットワーク

Q 地域建設業への要望・メッセージ

地域の生活や経済を支える建設業のみなさんは、強力なパートナーであると考えています。地域のインフラ整備のみならず、維持管理の担い手であり、災害時は昼夜を問わず真っ先に駆けつけて頂き、現場の最前線で地域住民の方々の安全安心を守っていただいています。

これからの強靱な国土づくりには、我々を含めた業界全体の技術力と行動力が不可欠であり、共に成長していければと思います。毎年のように起こる災害に対し、災害が起きる前から資機材を準備し待機されるなど、地域住民の方々の見えないところでも活躍されています。いざ災害が起これば、応急的な復旧から、次の災害に備えた防災・減災対策まで、我々の生活に欠かせない重要な役割を、責任を持って取り組んでいただき本当に感謝しております。

一方で、人口減少や高齢化が進む中で、担い手不足も課題となっており、建設業における働き方改革として、魅力ある職場になるため、さまざまな取り組みも推進しています。生産性の向上としてICT技術の導入や、週休2日制の推進等に取り組んでいますが、これからも建設業が魅力ある職場になるために、できるだけ多くの声を聞いていきたいと考えており、建設業界の将来のため、新たな担い手となる若手技術者の入職・育成に役立てればと思います。

ら地域性や土地柄も出てきます。また、その地域の情報や地域間の連携が見受けられ、地域住民の地元愛や風習などが残されている気がして、これからも絶えることなくがんばってほしいと願います。

座右の銘はありませんが、常に「スピード+想像力」をもって業務にあたることを心がけています。目先の対応だけでなく、相手の立場や状況、その課題の先を想像しながら、どうすることが最善なのか、結果的に業務着手も早く効率的です。手戻りも少なく、イレギュラーな出来事にも素早く対処できると思います。特に、危機管理が求められる状況では、いつも以上に意識しています。予想外の出来事もありますが、経験を積むことでその対処法も生まれ成長できると思います。

プロフィール



出身地：鹿児島県
 生年月日：昭和41年10月16日（55歳）
 H2年 建設省入省
 H7年 建設本省 都市局 街路課
 H9年 鹿児島国道工事事務所 調査課 係長
 H12年 福岡国道工事事務所 交通対策課 係長
 H16年 国土交通本省 道路局 高速国道課 係長

H18年 福岡国道事務所 管理第二課長
 H20年 延岡河川国道事務所 調査第二課長
 H23年 道路部 交通対策課長補佐
 H25年 道路部 道路計画第一課長補佐
 H28年 福岡国道事務所 有明海沿岸道路 出張所長
 H31年 道路部 道路工事課長
 R3年 現職

Q 趣味や座右の銘について

「道の駅」を担当していたのがきっかけで、道の駅めぐりが趣味になりました。九州内にある「道の駅」の8割ほどは訪問しています。道の駅は24時間無料で利用できる休憩機能のみならず、特産品などが